

不況と戦争の時代（1931－1945）その11

《1937年、分断された日吉村》

川崎市にある武蔵小杉は、タワーマンションが立ち並び、新しい都市ライフを提供しています。そこを通る東急田園都市線の近くに、「元住吉駅」と「日吉駅」があります。この両駅周辺地域は、川崎市と横浜市に別れていますが、昔は、一つの村で日吉村と言いました。

日吉村は、二ヶ領用水によって灌漑されていた東部地域と用水が届かない丘陵地からなる西部地域が共存するのどかな農村でした。そこに東横線が敷設され、1927年（昭和2）から、渋谷－神奈川駅間の直通運転が始まりました。

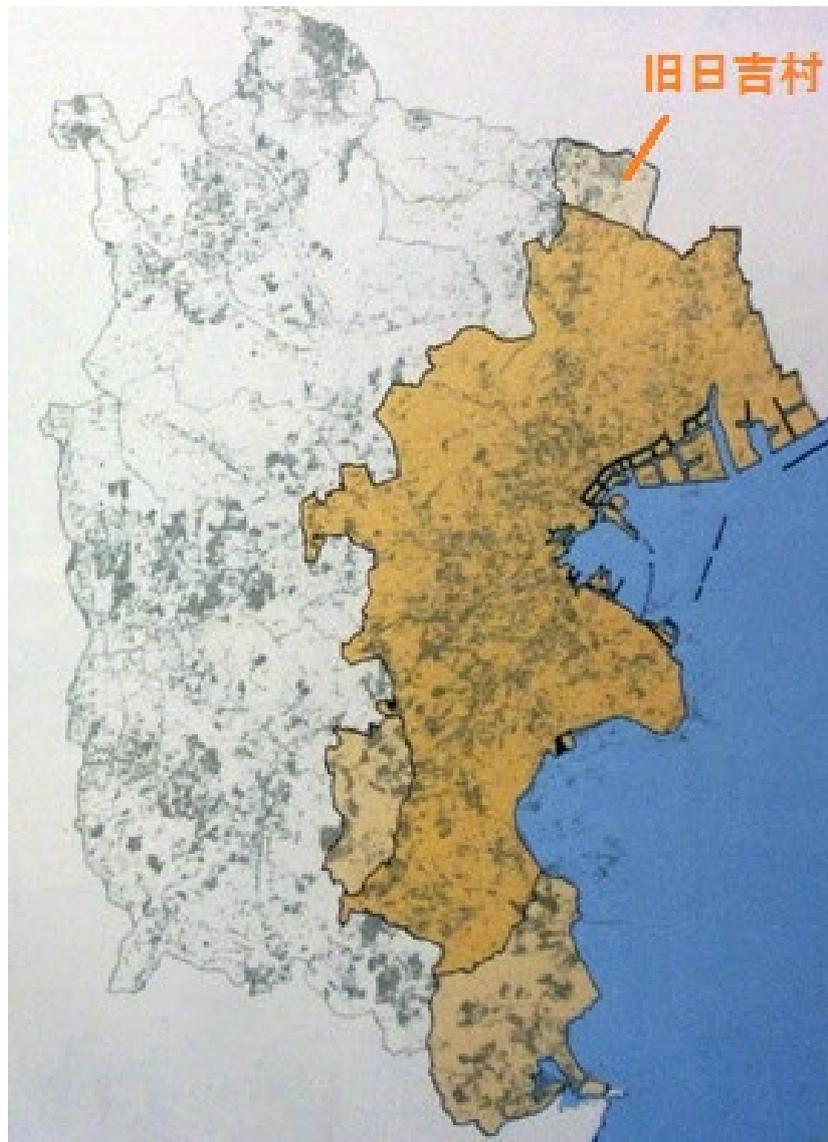
そのような状況下、1933年（昭和8）、日吉村を激震が襲います。慶応義塾大学が、東急の誘致にのり、日吉にキャンパスを建設する計画を発表します。

問題は、キャンパスの給水を、どこから受けるかで、東急が横浜市に依頼したことから、横浜市は日吉村合併を目論みます。川崎市は、そうはさせじと画策します。住民投票も行なわれ、西部地域の4字は横浜市合併を、東部地域の4字は川崎市合併を希望していました。

村長は、東部地域も含めて一緒に横浜市と合併することを目指しますが、日吉村村議会は、横浜合併反対派が騒ぎ出し、殴り合いの大喧嘩まで発展。結局、4年後の1937年（昭和12）、鶴見川支川矢上川を境界とし、東部地域が川崎市幸区に、西部地域が横浜市神奈川区（2年後に分区され、港北区となる）に分割合併されました。

写真は、①現在の地図（Yahoo 境界図より）、②日吉村全村図（川崎市幸区HP掲載図）③横浜市の拡大（はまれぽ.com 掲載資料より）

③



1937年(S12) 横浜市第5次拡張後